

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月4日

【評価実施概要】

事業所番号	4270400403		
法人名	社会福祉法人 清和福祉会		
事業所名	グループホーム ゆたか荘ベルホーム		
所在地	〒859-0301 長崎県諫早市長田町2781番地1 (電話) 0957-23-9680		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年1月24日	評価確定日	平成20年4月16日

【情報提供票より】(H20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	17 人	常勤 12 人, 非常勤 5人, 常勤換算	4.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000 円	その他の経費(月額)	5,000円・実費 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	一日あたり(780円)		

(4) 利用者の概要(1月4日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.3 歳	最低	74 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関


協力医療機関名	檀野医院・吉田歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人併設施設として、特養(ショートステイ事業実施)・生活支援ハウス・保育園・居宅介護・通所介護・小規模多機能等の多様な事業を行う事により地域貢献に務め、法人の経営理念である「安全・健康・尊厳・処遇・リハビリ」を追究するために地域力・環境力・組織力を活用して地域性を効果的に高める努力を日々取り組まれている。管理者は、家族の安心に繋げた面談や相談の受容に取り組み、家族の要望に応じ、サービスの工夫や病院紹介等、安定的な対応に努められている。又、福祉に携わる職員として気づきの意識付けを育むために、自らの生活近隣のボランティア活動を推奨し、協動的に実施されている。職員は、家庭的雰囲気の中で認知症を緩和させ可能な事の自立志向に、花畑を広くと開墾して花・野菜の栽培と成長した野菜の収穫を喜び、季節を味わう楽しみを分かち合い、入居者と心の通い合う温かい介護に努め支援されている。近隣には、小中学校があり、ネット情報公開や挨拶交流の連携もされ、今後、更に、地域の組織力を高めて関係性の継続への構築が期待される。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価後は、改善計画シートを作成し、改善に向けての計画内容に沿って、可能な事が改善に向けて取り組まれている。食事を楽しむ事の支援は、入居者の介護度の低下に伴い介助の重要性を優先的に考慮して、馴染みの食器や湯飲みを準備され、食事を作ることが絶対ではなく、畑で収穫した野菜で漬物作りやおやつ等、出来る事の支援に努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、評価を質の向上に向けて、今後どのように支援していくか、評価の意義を理解し結果より過程を大事に、介護の意識をより意欲的に取り組む効果として活用され、職員全員で取り組みの確認と共有を図られている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、ホーム開設(平成12年)以来、自主的に年3回開催されており、現在は、2ヶ月を目途に開催され市職員・民生委員・自治会会長・老人会代表・家族代表・代表者・管理者・職員で構成されている。新事業の小規模多機能も同時開催により、施設の利用状況と料金・入居者の身体状況・感染症の予防対策等を報告して理解を頂き、出席者より要望・助言など双方向的な充実した内容の会議が開催されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の訪問時、生活状況の説明や訪問の少ない家族には、必要に応じ電話連絡をされている。金銭管理は、利用料請求書と立替金の預収証を同封して発送され、家族の確認を得られている。重要事項説明書に明記の苦情処理担当者が、十分な時間を設け、家族が理解と納得を得られる様、説明と対応に努められている。運営推進会議には、グループホーム及び小規模多機能の家族代表が参加され、要望や苦情等を話す機会となり安心に繋がる関係の構築が図られている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事に参加して、馴染みのある関係性を存続されている。管理者は、地域のお世話をされている代表の方と親睦を深め、情報の収集に努められている。地元消防団・中学校と防火ホットラインによる協力要請と近隣の小中学校とボランティア・ネット交流の他、職員の清掃ボランティア等で、地域に馴染んで気軽な挨拶を交し合う密接な関係作りができています。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が、住み慣れた地域の中で継続して生活出来る様に、日々の介護の意識付けとなり、職員と共に明るく楽しい生活をされている。地域密着型サービスの意義を認識し、法人の経営理念を追求して、地域住民と交流のもと、関係性の継続を効果的に高めていく独自の理念となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関・食堂に掲示され、日々の介護に向けた職員の意識付けとなる様、毎朝の申し送り理念を振り返り、入居者と心の通い合う温かい介護を常に心掛けて支援されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加して、馴染みのある関係性を存続されている。管理者は、地域のお世話をされている代表の方と親睦を深め、情報の収集に努められている。近隣の小中学校とボランティア・インターネット交流の他、職員の清掃ボランティア等で地域に馴染み、挨拶を気軽に交わし合う密接な関係作りができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価後は、改善計画シートを作成し、可能な事から改善されている。自己評価は、評価を質の向上に向けて結果より過程を大事に、介護の意識をより意欲的に取り組む効果として活用され、職員の確認と共有を図られている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、2ヶ月を目途に開催され市職員・民生委員・自治会会長・老人会代表・家族代表・代表者・管理者・職員で構成されている。新事業の小規模多機能と同時開催により、施設の利用状況と料金・入居者の身体状況・感染症の予防対策等を報告して、理解を頂き、出席者より要望・助言など双方向的な充実した内容の会議が開催されている。		

グループホーム ゆたか荘ベルホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	インターネットを通じて市・町との情報交換に取り組み、地域性を高め、サービスの向上に取り組まれている。又、入居者で権利擁護の利用者があり、福祉課とは連絡を取り、相互関係ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時、入居者の日々の生活状況を説明されている。又、家族の実情を把握して、訪問の少ない家族には、必要に応じ電話連絡をされている。金銭管理については、利用料請求書と立替金の領収書を同封して発送され、家族の訪問時に確認を得られている。ホーム便りは、毎月インターネットにより情報公開をされている。		家族の理解を得ての、インターネットによる情報公開と共に、今後は、職員と入居者の心温まる交流を言葉にして、手書きなどで個々にホーム便りを作り、同封する事で家族との通信による交流が更に繋がるのではないかと。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に明記された苦情処理担当者が、十分な時間を設け、家族が理解と納得を得られるよう説明と対応に努められている。運営推進会議には、グループホーム及び小規模多機能より家族の代表が参加され、意見・要望・苦情等を気軽に話し合える機会となり、家族の安心に繋がる相互の密な関係への構築が図られている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設7年を経過、職員と入居者が仲良く、馴染みの関係が保てるよう離職は殆ど無く、離職に備えて新人職員が事前に関わりを持ち、混乱が生じないよう対応を考慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、研修受講後報告書を作成され、職員に回覧して周知を知られている。その他の資料や報告書を職員間で閲覧し、段階的な研鑽に努め、毎月法人全体での研修や介護知識のレベルアップに毎週内部研修に取り組まれている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、インターネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームとのパンフレット作成や、グループホーム協議会でインターネットによる空き情報の公表等、日常的な交流に努められ、地域の介護職員の質の向上の為に、段階的に研修企画をボランティアとして参加されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	インターネットによる空き情報を公開され、今までの生活習慣を大切に考慮し、職員と面談の上、グループホーム見学や体験入居・小規模多機能利用後の気軽な訪問・通所介護・訪問介護・短期入所生活介護等のサービスを組み合わせ、本人と家族が納得してから、徐々に馴染んで頂く様に努められている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	様々な経験を経てこられた入居者から教えてもらう姿勢で、日常の会話で思いの受容に努め、家族・友人・親戚の訪問の協力を頂き、職員と一緒に喜怒哀楽を共にして支え合いながら、関係性の構築に努められている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活歴を把握すると共に、入居後の状況や対話の中でより深く理解する事に努め、更なるグループホーム独自の理念アセスメントの追求に取り組まれている。暮らし方の充実を図り、療育音楽・買い物・受診・花や野菜の栽培等、入居者の意向や希望を聞き逃さないように、記録と職員の共有に努め支援をされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者と家族の意向や要望を取り入れ、主治医との連携・把握に努め、入居者の思いや意向を暮らしに反映した、サービス内容となる介護計画を作成されている。毎月の処遇会議や日々の申し送り職員との共有を図られている。又、家族には介護計画書の説明を行い、家族の同意と記名捺印が得られている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の処遇会議でモニタリングを実施し、入居者一人ひとりの介護計画の実施状況と、状態の変化に応じ随時、計画の見直しを行い、次の計画へ取り入れられている。又、入居者の状況を医師に説明できるように詳細な記録により把握され、安心で有意義な支援に繋がるよう見直しをし、症状の緩和ケアの継続に取り組まれている。		

グループホーム ゆたか荘ベルホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設(デイサービス・小規模多機能型居宅介護・支援ハウス等)と連携を図り、療育音楽(毎週月曜日実施)を取り入れ、地域との関わりを大切に、入居者や家族の要望(希望により宿泊も可能)に応じ柔軟な対応をされ、家族の相談相手となり、安心への継続的支援をされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者 - 人ひとりのかかりつけ医や協力医療機関の確保があり、看護師の確保により医療連携体制は図られている。入居者、家族の経済的状況を把握して医療連携体制加算の指定を受けられていないが、気軽に相談や指示が仰げる関係作りにより、適切な医療支援がなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時、重度化した場合については責任の持てる出来る事の支援を家族に説明をして、それぞれの立場を明確化し医療を受け、早期退院に向けて情報提供と家族の要望を大切に話し合い、対応されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、入居者一人ひとりに配慮して言葉掛けに留意され、方言を交え明るく笑顔で接している。食後にソファで寛ぎ、ゆったりとテレビを見たり楽しそうに過ごされている。又、お便り等は、個人情報へ配慮し、配布を控えられている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースを大切に食後の行動を把握して、居室で過ごす方やソファに寛ぎテレビをみる方、入居者の思いを気がけそっと寄り添って介助をされている。		

グループホーム ゆたか荘ベルホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の介護度の低下に伴い、介助の必要な入居者にはペースを大切に食卓を囲み、楽しく食事が出来るよう支援されている。食事は、施設内調理室で作られグループホームでは収穫した野菜で漬物作りやおやつ等、出来る事の支援に取り組まれている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前には、入居者の容態を把握して週2回を目途に支援されている。失禁時は清拭等で対処されているが、入浴拒否者があり、数日入浴をされない場合の清潔保持面を考慮した支援が充分とはいえない。		入浴支援は、週2回で曜日を決められているが、入浴拒否者や季節に応じた入浴回数等、入浴で清潔に過ごして頂くよう、楽しみな事として入居者の意向に沿った対応及びホームが持つ機能を十分に活かした支援を期待したい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	訪問日は、季節的に戸外は寒く、食後ソファで寛ぎテレビを見たり居室で休まれているが、入居者が花畑を利用して、花や野菜の成長や収穫を楽しみに育てたり、入居者一人ひとりの意向や力量に応じ張り合いを持ち喜びのある生活へ出来る事の支援(音楽療法・壁面製作等)を考慮されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節に応じた行事等で外出の機会を設けて、支援されている。入居者一人ひとりの体調と希望を考慮し、又、目的意識を持って頂き、庭の散歩や通院で可能な限り、外出の機会を設け支援されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、日中施錠する事無く、入居者が避難経路より外出しても呼び止める事をせず、自然な対応に心掛けられている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防設備点検業者との連携により、職員に周知を図る様、数日を通して訓練を実施され、研修で学んだ夜間想定避難方法を取り入れ、常に、入居者の安全を考慮して職員の共有に努めている。又、防火対策(ホットラインで協力要請)消火用設備(消火器・自動火災報知器・防火用水・火災報知設備)を設置されている。		今後、地震災害に備えての避難訓練及び備蓄品(最低3日分余りの食料等)の確保を考慮される事が望まれる。

グループホーム ゆたか荘ベルホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の味付け・彩りは良く、入居者の食事量及び水分摂取の把握に努め、食事・おやつのに1,000ccを目途に飲水の促しをされている。又、口腔体操を実施して入居者の嚥下・咀嚼にも配慮をされている。栄養バランスについては、栄養士の献立に基づき、1,400カロリーを基準に摂取できるよう考慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ピアノ・テレビ・ソファを備えた共用空間で、バリアフリーで車椅子でも移動可能なゆとりのあるトイレも有し、食卓テーブルには季節の花を飾り、入居者が職員の介助を受けて食事をされている。共同の手作り作品を掲示され、陽射しはカーテンで和らげ、入居者の好む光彩に心掛けられている。手作りのカレンダーや写真の掲示等、家庭的な雰囲気配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ゆとりがあり筆筒・ベッド・寝具・衣類掛け・ソファ・日用品等、使い慣れた品を持ち込まれている。入居者一人ひとりの自宅として氏名を明確に分かり易く表示し、ゆとりある生活の継続的支援に努め、安心して過ごせる様に、家族との関わりが持てる居室への配慮をされている。		